

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------------|----|------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービスTODAY'S KIDS | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年2月2日 | | 2026年2月20日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 19 | (回答者数) 18 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年2月2日 | | 2026年2月20日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年2月27日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | こどもが安心して通所できる環境が整っており、放課後等デイサービス計画に基づいた支援と丁寧な説明を通して、保護者との信頼関係が継続的に築かれている。また、定期的な面談や日々のやり取りを通じて、こどもの成長や課題を共有できる体制が整っており、家庭と連携した支援が行われている。 | 放課後等デイサービス計画(個別支援計画)をもとに支援内容の説明と同意確認を行い、保護者との共通理解を図っている。定期面談を実施し、課題や成長の共有を行いながら支援内容の見直しにつなげている。また、送迎時や日々の連絡を通じて相談しやすい関係づくりを継続している。 | 面談記録や相談内容の整理方法を統一し支援への反映を明確にするとともに、職員間で説明内容の標準化を進め、利用開始時や更新時の説明の質を平準化していく。 |
| 2 | 連絡帳や送迎時のやり取りを通じて、利用時の様子や支援内容が家庭に丁寧に伝えられており、保護者が安心して状況を把握できる体制が整っている。また、職員間でも日常的に情報共有が行われ、支援の継続性と統一性が保たれている。 | 連絡帳に利用時の様子を具体的に記録し、家庭との情報共有を行っている。職員間では日々の打合せやミーティングを通じて支援の状況を共有し、関わり方の統一を図っている。 | 通信やSNS等による発信について年間計画を作成し、活動報告や自己評価の公表が継続的に行えるよう運用を整えていく。また、記録の書き方を統一し職員間で共有しやすい形式へ整備する。 |
| 3 | 安全管理や防災に関する体制が整備されており、避難訓練やヒヤリハットの共有を通して事故防止や緊急時対応への意識が職員間で共有されている。また、清掃や整理整頓を徹底し、必要に応じた個別スペースの確保など、こどもが安心して過ごせる環境づくりが行われている。 | BCPの整備、避難訓練の実施、ヒヤリハット共有等を通じ、事故防止と緊急時対応の確認を継続している。生活空間の清掃や整理整頓を行い、安心して過ごせる環境づくりを行っている。 | 訓練内容をより具体的な想定に落とし込み実践性を高めるとともに、安全計画の周知方法を見直し、保護者が必要な情報にアクセスしやすい形に整えていく。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 利用状況や活動内容が重なる時間帯において、活動スペースや職員配置が十分に確保しにくい場面が見られ、こども一人ひとりに合わせた支援を行うための環境調整に課題が生じることがある。 | 利用人数の増加や活動が集中する時間帯において、十分な活動スペースの確保や支援体制の維持が難しくなることがある。また、安定した人員確保が継続的な課題となっており、現行の配置調整だけでは対応が難しい場合が生じている。 | 活動時間や使用スペースの分散、動線の整理等により、過密になりにくい環境づくりを進めていく。あわせて、職員の採用や育成、シフト体制の見直しを行い、支援の質を維持できる人員配置について継続的に検討していく。 |
| 2 | 家族支援(ペアレント支援や研修等)については、日常的な相談対応や個別面談は行っているものの、体系的な支援プログラムとして計画的に提供できる体制が十分に整っていない状況がある。 | 現在は個別面談や日常的な連絡を中心とした対応となっており、保護者向けの支援プログラムとして計画的に実施する仕組みが十分ではない。また、平日開所のみであることから、参加しやすい時間設定や実施方法についても検討が必要な状況である。 | 年間計画の中で情報提供や関わり方の共有の機会を位置付け、希望に応じた個別対応も含めて家族支援の充実を図っていく。面談時には家庭での具体的な関わり方を共有できる資料等を整備し、保護者の状況に応じて活用できる体制を整えていく。 |
| 3 | 地域との連携や外部資源(児童館、支援センター等)の活用については、情報収集や一部連携は行っているものの、継続的かつ実践的な連携体制の構築には至っておらず、十分とは言えない状況がある。 | 地域との交流機会が限られており、継続的な連携先の確保や関係づくりが課題となっている。また、児童発達支援センターからの助言や研修機会、(自立支援)協議会等への参加も限定的であり、外部資源の活用が十分に進んでいない現状がある。 | 交流そのものを目的とするのではなく、こどもの特性や必要性を踏まえた段階的な地域資源の情報収集と連携を進めていく。あわせて、外部機関との連携内容や会議で得られた助言等を記録・共有し、事業所全体で支援に反映できる仕組みづくりを行っていく。 |